

開会挨拶・本フォーラムの趣旨（第3回 高齢者とビジネスと法 Onlineフォーラム）

著者	池田 眞朗
雑誌名	武蔵野法学
号	15
ページ	228-226
発行年	2021-09-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1419/00001585/

武蔵野大学大学院法学研究科 博士課程開設記念連続フォーラム 第3回 高齢者とビジネスと法 Online フォーラム (2021年3月2日開催)

1. 開会挨拶・本フォーラムの趣旨

池 田 眞 朗

池田 武蔵野大学大学院法学研究科博士課程開設記念、『高齢者とビジネスと法』Online フォーラムでございます。ビデオはオフ、マイクはミュートでご参加ください。もし後で時間があって個別質問がある場合には、そのマイクのミュート解除は別途お願いをいたします。それから画面の撮影、録音、録画はご遠慮ください。画面のスクリーンショットを撮ることも、報告者の許諾のある場合を別として、それ以外はお断りをいたします。なお、混乱を避けるために、報告中のチャット使用もご遠慮ください。

皆さん、こんにちは。本日はようこそご出席をくださいました。武蔵野大学法学研究所長、大学院法学研究科長を務めます、池田眞朗でございます。本日は、この4月から本学法学研究科ビジネス法務専攻が博士後期課程を新たに開設する、その記念行事としての3連続フォーラムの最終回として、高齢者とビジネスと法についてのフォーラムを開催する運びとなりました。新型コロナによる遠隔オンライン開催ということになりましたけれども、ある意味では、それを逆手に取ることができまして、ご登録者が85名という多数のかたがたにお集まりをいただきました。また、本日の東京は雨模様なのですが、雨の中、ご足労いただかなくてもいいというのもオンラインのメリットかと思います。いずれにしても、まずはご参加いただきました皆さまに深甚のお礼を申し上げます。

なお、私の画面の背景には、これは武蔵野大学有明キャンパスの 1 号館を映し出しております。最寄り駅は、りんかい線の国際展示場とゆりかもめの東京ビッグサイトであります。過去に樋口先生が主催された研究会などでおいでくださった方もいらっしゃるかと思いますが、初めての方は、コロナ禍が終息しましたらぜひ一度お出掛けください。大学院の科目等履修、つまり好きな科目を一つだけでも履修できる、しかもオンラインでも受けられるという、そういう履修形態も力を入れております。2021 年度はこの科目等履修はこれから募集でございます。

本学がビジネス法務専攻という形を選んで大学院法学研究科修士課程を創設したのは、2018 年 4 月でありまして。そして今回は、今年 4 月からの博士課程開設を記念しての 3 連続フォーラムを行うということになったわけであります。私どもは、この 3 回のフォーラムを通じて、まず、現代のビジネス法務の最先端の動態を把握したい。そして、研究者教員と実務家教員が一体になった研究教育体制を構築し、確立したいと考えております。そして、そこから向かう次のステージはビジネス法務学の探究でありまして、さらにはそれを研究し普及させる実務家教員の養成ということになります。

この度は、既に第 1 回として 2 月 2 日に電子契約をテーマに開催をいたしました。第 2 回はその 2 週後の 2 月 16 日に担保法制をテーマに開催をいたしました。いずれも現代のビジネス社会の文字通りのホットイシューでありますけれども、その中でも本日は、私どもの市民生活、社会生活に最も密着したテーマを扱います。その上、この後、樋口先生から課題の提起としての基調報告をいただきますけれども、「高齢者とビジネスと法」という、このトライアングルを正面から論じた企画というものは、これまでそう多くないと思います。この三つはつながるはずだ、つながらなければならない。でも、どうつながるべきなのか、と考えていきますと、実はこれは大変興味深い、そして奥の深いテーマであるように思います。

恐らく本日は樋口先生のこの後のご報告で、ご参加の皆さんの問題意識が開かれ、アプローチのガイドがされて、その後、4 つのそれぞれ違ったパー

スペクティブからの分析がパノラマのように広がるだろうと思います。そしてそれらが樋口教授の結びでどうなるか。樋口先生に少々「ハードルを上げないでくれ」と言われているのですけれども、本日、私は主催者としてよりも、一学習者としてこれから全部のご報告を楽しみにしております。深い重いテーマであっても、学問は楽しくなければいけないのであります。わくわくするようところがなければいけないと私は思います。そういうところをご参加の皆さんと体験し、共有できたら素晴らしいと考えております。実は、私は各報告者のパワーポイント資料を事前にちょっと拝見しておりますので、本日のフォーラムは、ご専門の研究者や実務家の方はもちろん、一市民として参加されている方も、これから勉強しようと考えている学生の方にとっても、ご参加の皆さんのそれぞれのお立場、それぞれのご関心で、それぞれ何か得ていただけるものがあるはずだというふうに私は思っております。それでは早速、以下の進行も含めて樋口先生にマイクをお譲りしたいと思います。